

人吉高等学校五木分校 令和4年度(2022年度)学校評価表

1 学校教育目標
<p>教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉・球磨地域にある普通科の人吉高校の分校として、五木村の豊かな自然環境の中、小規模校の特長を最大限に生かして、心豊かで調和のとれた社会に貢献できる人材を育成します。</p> <p>そのため、生徒の多様な進路希望を叶える個別最適化した学びを充実するとともに、一人一人の個性と自主性を尊重し、地域と連携した多様な教育活動を目指します。</p> <p>今後は、体験活動や探究活動等を通して、生徒が自己実現に向かう心を育み、実践力や自己管理能力など幅広いキャリア教育の充実を図ります。また、ICTを積極的に活用し、分校と本校を結ぶ遠隔授業の実施や地元の小中学校や関係機関との連携を深め、地域に根差した特色ある探究的な学びを展開します。</p>

2 本年度の重点目標
<p>教育スローガン「一人一人が輝く分校生！」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣と学習習慣の確立を通して自己管理能力を育成し、自己実現に向かう心を育成する。 2 ICTを活用した教育活動の進化と深化による、主体的・対話的で深い学びを充実させる。 3 進路指導の充実を図る。 4 多様な生徒への対応に努める。 5 地域に根ざした特色ある取組を推進する。 6 校務改革に取り組み、生徒と向き合う時間を確保し、職員の多忙化の解消に努める。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの充実。 ・分校ニュースの発行。 ・「地域とともにある学校」の実践。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを週3回以上更新し、アクセス数が一日平均100を超す。 ・生徒の頑張りを情報発信する分校ニュースの毎月発行、保護者、地域機関、五木村民、出身中及び学校運営協議会への配付とホームページへの掲載。 ・学校行事等を地域へ発信。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年をとおして、ホームページの更新を実施した。アクセス数は1日平均73であった。 ・情報発信として分校ニュースを関係機関に毎月届けた。また読みやすくなるように用紙をA4からA3へ変えることで文字を大きくして、発行した。
		ボランティア活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献のための環境美化活動の実施。 ・地域の交通安全運動の協力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査最終日及び夏休みに学校周辺の清掃・美化活動を全校生徒・職員で実施(学期に1回以上、年3回以上目標)。また地域と連携をはかり新たなボランティア活動を模索する。 ・毎月月初めにあいさつ運動を実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査後に村内清掃ボランティア及び小学校の除草作業を実施した。年4回の実施であった。(4回目は計画中)また、新たなボランティアは模索中である。 ・あいさつ運動は、予定通り毎月月初めに実施できた。

	五木秀麗会との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・秀麗会、保護者懇談会等を通じた連携。 ・保護者の協力を得ながら運動会等の各種行事の成功。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秀麗会会長との密な連絡。 ・日頃から担任と保護者の密な連絡・相談等を通し、良好な協力関係の構築。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・秀麗会との連携により、役員会でも多くの建設的な意見や多大な協力を得た。 ・「五木分校保護者クラスルーム」に保護者限定分校ニュース電子版を配信、多くの写真を掲載し、日常的な生徒の様子を伝えた。
地域に密着した教育活動の充実	地元保育所・五木東小学校・五木中学校との合同事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・第10回保小中高合同大運動会の円滑な運営と成功。 ・小学校や中学校との交流、合同研修会や行事の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元保育園・小学校・中学校及び各校種PTAと密接な連絡体制の構築と連携。本年度は五木東小学校が担当校。 ・救急講習、防災教育、各種講演会等における中学校との合同開催の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・第10回を迎えた歴史ある運動会を、保小中と合同で開催できた。3年生の中には、第1回から参加した生徒もいた。 ・防災教育は、中高連携で生徒にわかりやすく好評であった。
	地域中学校との連携強化及び入学生徒数の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校への魅力発信の取組の充実。 ・令和5年度入学者数2桁を目標。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学及び学校紹介DVDの内容の充実とマスコミ等を活用したPR。 ・在校生の状況に関する情報共有を通じた本校の丁寧な対応のPR。 ・分校ニュースのカラー印刷で増刷。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学は10人ほどの参加であったが、個別の学校見学が数件あった。 ・50周年記念事業、地域のボランティア活動、木工教室やICTを活用した他校との交流授業等の情報を新聞社に提供し記事に取り上げられた。 ・学校紹介DVDを管内中学校に配布した。
	五木村関係機関や団体との連携と行事等への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・分校独自の教育活動の展開。 ・五木村の教育活動への参画。 ・警察と連携した交通安全指導等への参加。 ・消防署と連携した、救急法講習や防災教育の実施。 ・年に10週あいさつ運動の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・五木村学校運営協議会、五木村人権教育推進協議会、五木村青少年育成会議への参加。 ・五木村で行われる交通安全運動、社会福祉協議会の福祉祭、駅伝大会等への生徒会を中心とした積極的な参加。 ・中学校との連携を密に図り関係機関との調整を円滑に実施。 ・地域の方々への挨拶により、地域との良好な協力関係を構築。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅訪問や林業教室など地域の産業に目を向けた教育活動ができた。 ・五木村の各種会議に参加することができた。 ・あいさつ運動を計画どおり実施できた。 ・消防署と連携し、救急法講習や防災教育を中学校と合同で実施できた。 ・五木村新春駅伝大会に参加予定だったが、直前に中止となった。

	業務改善 働き方改 革	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と向き合う時間の確保 ・職員の多忙化解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場環境の整備。 ・職員の生産性の向上。 ・文書管理、データ管理の効率化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校改革推進委員会によるボトムアップの提案、改革。 ・文書管理、データ管理に関する職員研修の実施。 ・校務のデジタルシフトの推進 ・衛生推進会議の開催。 ・O J Tの推進。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文書、データの管理についてI C T活用により効率化が図れた。 ・衛生推進委員会を毎月開催した。時間外勤務の削減をさらに進める必要がある。
	教育課程	教育課程の検討実施	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の編成・実施と検討。 ・社会に開かれた教育課程の編成・実施と、カリキュラムマネジメントにおける教科横断的授業の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討委員会を実施し、将来のビジョンに関する検討と進路指導体制の強化。 ・進路指導と連携した、生徒の就職や進学等、幅広い進路選択に対応できる教育及び職業教育の指導計画の推進。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携し、全職員で教育課程を再検討した。生徒の多様な進路目標が実現できるような教育課程を編成することができた。 ・I C Tを利用した職業教育や、教科横断的授業を試みた。
学力向上	基礎学力の定着	学校設定科目「ステップアップ」の充実	生徒間の向上心の高揚を図り、以下のような昇級を目指す。 1年・・・7段階昇級 2年・・・6段階昇級 3年・・・5段階昇級	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年を3段階の習熟度別グループに分け、T Tによる振り返り学習の実施。 ・1級以上合格者に対してI C T端末機器を活用した個別指導の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の学習目標を持つことで、学習態度が改善し、着実に力をつけていた。特に数学ではI C T機器を活用し、学習の成果を「見える化」したため、意欲を持って学習に臨む生徒が多く見られた。
		家庭学習時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の課題（「日々の課題」等）の未提出者0。 ・考査前の学習時間（1日平均）を一年生は1時間30分、二年生は2時間、三年生は2時間30分を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の連絡ホワイトボードを利用した教科担当と担任との連携の深化、及び生徒の自己管理能力の育成。 ・基礎学力向上を目指した日々の課題の作成。 ・考査前学習会を有効に使った学習時間の確保。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出率向上に向けたホワイトボードやI C T機器の利用が教科担当や担任との連携の深化、自己管理能力の育成に役立っている。 ・担任が中心となり、考査前学習会だけでなく、日頃から放課後を有効に使って学習時間の確保に努めた。
		授業の充実	「達成感のある授業」の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・I C T機器の有効活用を行い、教員の授業の質を高める。 ・生徒の学力に応じた授業の工夫と個別指導を充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・I C T機器を利用したK I 2 0の実践と、公開授業及び研究授業による授業力の向上。 ・各定期考査前学習会の実施。 ・観点別評価の実施に関連した目標の設定と目標達成の手立ての指導。 	A

		授業時間の確保	学校行事の精選。	・行事の内容と期間の見直し。	B	・学校行事全体を系統立てて精査する余裕が持てなかったが授業時数の確保に関しては限られた条件下で善処した。
		研究授業の実施と授業改善	・研究授業の実施。 ・学びの基礎診断を活用した授業の見直し。	・研究授業後の合評会の充実。 ・学びの基礎診断のデータをもとにした職員研修の実施。	A	・研究授業を通して、新課程の学習と評価のスタイルについて実際の運用も含めて協議することができた。
キャリア教育	キャリア教育の充実	キャリアガイダンスの充実	・3年間を見通したキャリア教育計画の再構築。 ・外部講師による進路学習の実施。 ・ICTを活用した進路学習の実施。	・進路指導部を中心に計画を作成。 ・進学、就職に関する講話や、社会生活に向けた講話を通して、進路について考える機会を設ける。 ・ICTを活用し、情報収集能力をつけ、進路希望を早期に設定する。	A	・計画通りに実施することができた。 ・外部講師や、担任指導の下、LHRを中心にさまざまな機会を捉えて、ICTを活用しながら、進路について考えさせることができた。
		就労観の育成	・インターンシップの実施	・インターンシップを通してコミュニケーション能力の大切さや、時間を守ることの大切さを学ぶ。	A	・感染症流行の影響もあったが、無事実施できた。実施後、生徒の進路決定への意識が向上した。
		「総合的な探究の時間」における系統的な探究学習の充実	・協働体験学習を充実させ、社会生活に必要なコミュニケーション能力、思考力、創造力の育成。	・1学期までは農作物を協働して育てることでコミュニケーション能力の育成を図る。 ・2学期以降は探究学習を行い、自ら設定したテーマで調べ学習を行い、まとめた内容を発表する。	A	・従来の活動に加え、ICTを活用して泉分校との連携という新しい試みを実施することが出来た。 ・50周年記念式典では、探究活動の成果を発表することができた。
	個に応じた進路指導	各自の進路希望に応じた個別指導の実施	・一人一人に適した進路の保証。	・進路希望調査及び個別面談を適宜実施し、個に応じた課外や面接指導の実施。 ・関係諸機関との連携とともに個別指導の充実を図る。	A	・3年生は、全員が第一志望の進路に合格することができた。今後卒業までの準備期間での指導も充実させていきたい。また1、2年生は、大学や専門学校のパンフレットを取り寄せたことで、個別にさまざまな進路選択を紹介することができた。

生徒指導	基本的生 活習慣の 確立と規 範意識の 高揚	基本的生 活習慣の 確立	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの力で生活態度を向上させる態度の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアパスポート」の毎日の提出。 ・気になる生徒への担任面談の実施と保護者との連携。 ・週に1回片付けの時間を設定することによる整理整頓の習慣化。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの記録により、家庭の様子を理解し、面談に活用することができた。 ・家庭での基本的生活習慣を育ませ、さらに自立心を養わせる必要がある。 ・整理整頓を習慣化するための片付けの時間確保ができた。 	
		規範意識 の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事や学級活動等での集団での行動や月例集会講話を通して、規律ある行動ができる集団の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導、整容や言葉遣い指導等を通して規範意識の向上とマナー、モラルの育成。自由とわがまを混同することなく人吉高校生としての校則を考える機会を毎年もち、良い学校生活と卒業後を見据えた校則を策定。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・整容面での軽微な違反はあったが、個別に指導することで規範意識の喚起と改善が図られた ・生徒を交え校則(制服)について検証・見直しを図られた。 	
		家庭との 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動、トラブル等を未然に防止する態度の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期いじめアンケート調査、生徒の日常観察、家庭との密な連携等による全職員の生徒の情報共有によりトラブルの未然回避。 ・保護者への啓発を行う場の設定と安心メールの有効活用。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全メールやホームページ、また電話や家庭訪問等できるだけ保護者と連携をとってきた。 ・トラブル等が見られ、因子も見え隠れし悩みもある生徒が多いため、日頃から密に連携を図る必要がある。 	
		生徒の主 体的活動 の充実	主体的な 生徒会活 動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒の生徒会活動への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒が生徒会の係を分担し活動を行い、生徒総会、月例集会の生徒会による運営の充実を図る。定期的に委員会を実施し、生徒会の一員としての活動機会を充実させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・責任感を持って企画運営の係仕事に取り組む姿が数多く見られた。一方で各種委員会が活性化されておらず、生徒会が、連絡機関になっている場面もある。
			放課後の 時間を活 用した学 校生活の 充実	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への積極的な参加や自らの課題と向き合う学習への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年度から総合運動部・総合文化部に部活動を改変。生徒に積極的な参加を促すとともに、様々な体験を通して新たな目標を持たせる。また、自らの課題の理解と自己管理能力の育成を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率は全員パソコン部入部で100%となっている。各部活動の実態に応じて練習や各種大会やコンクールに参加できた。 ・学習との両立や、通学バスの便数により活性化が難しい。今後、五木分校にとっての部活動のあり方を継続的に検討する必要がある。

人権教育の推進	個々の生徒に応じた適切な指導	生徒一人一人の状況把握と柔軟な対応	<ul style="list-style-type: none"> 各学期1回以上、職員研修（生徒理解、特別支援等）の実施。 毎週の運営委員会での生徒の状況報告と実態把握。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部の専門家との連携を密にした積極的な活用。 生徒理解の資料作成と、全職員が生徒個々の特性と現在の状況を共通理解し指導に生かす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、生徒一人一人への指導や支援に繋げることができた。 各学期の生徒理解研修や支援会議等を通して、職員で共通理解を図った。
		生徒と教職員、生徒同士の望ましい人間関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した人権教育LHRの計画的な実施。 各行事を通して、生徒の自尊感情の定着と互いを認め合うことのできる育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとにテーマを設定し、わかりやすい授業実践。 学校行事では、生徒全員が互いに協力して作りあげる取組を重視した計画を立てて、全職員で支援にあたる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育強化月間には、担任のLHR講話を実施し、人権感覚の涵養に効果があった。 分校創立50周年記念駅伝では、各生徒がたすきをつなぐことで互いに認め合う感情が芽生えはじめた。
	命を大切にすることを育む指導	取組をとおした生命の尊厳並びに他者の価値観を尊重する自尊感情の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各学期「自他の価値を尊重する意欲や態度」を育む授業やLHRの実施。 月例集会講話等で思いやりの心や強い心の醸成。 ボランティア活動の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科科目の授業で、「命を大切にすることを育む」についての授業を行う。 LHR、総合的な探究の時間や月例集会等を活用し、日頃から「思いやりの心」について講話を行う。 ボランティア活動による自己有用感の深化。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権学習LHRアンケート調査から「思いやりの心」を気にかけるようになり総合的な探究の時間においては「命を大切にすることを育む」が育まれた。 地域社会でのボランティア活動で若者としての役割をはたし、自己有用感が高まるようになった。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針の着実な推進	いじめを許さない心を育む指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> いじめ発生0。 いじめにつながらない学校全体の土壌づくり。 職員間における生徒の情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体指導と個別面談を行い、いじめの未然防止。 月例集会における生活態度等についての注意喚起。 徹底的に生徒情報を職員間で共有し、生徒の小さな変化を見逃さず早期発見、早期対応、早期解決、再発防止のできる体制と環境づくり。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭を中心に相談しやすい雰囲気作りに努めたことで、悩みや困り感に対し迅速に対応し、未然防止を図ることができた。 毎学期のいじめアンケート調査では、報告件数1（いじめ認知件数ゼロ）であった。 相手に不快感を与える軽微とはいえ言動・行動も見られるため、さらに意識を高めていく必要がある。

		生徒の状況把握と迅速な指導体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口の周知と日頃の生徒間の観察と情報共有。 年3回の心のアンケートの実施と外部の専門家を活用したいじめ問題対策委員会の毎学期実施。 いじめ防止基本方針の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口を合格者説明会、入学式、1学期始業式、五木秀麗会総会で生徒保護者に周知徹底。 健康相談・教育相談担当、担任の日常観察及び運営委員会報告等、全職員が生徒の変化を把握した上で適宜対処。 いじめ防止に関する職員研修の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 担任による健康観察や養護教諭による「いきいき相談」等を通じて、生徒の変化の早期発見に努め全職員で対応できた。 外部専門家（SC/SSW）を交えたいじめ問題対策委員会や生徒理解研修、日々の情報交換で職員のいじめに対する察知力や危機意識の向上に努めた。
地域連携（コミュニティスクールなど）	学校運営協議会をベースにした、地域と一体となった連携体制の構築	統合型コミュニティスクールによる地域や関連機関との連携の確立	<ul style="list-style-type: none"> 行政、地元小中学校、保護者、地域住民代表と連携し計画的な協議会の開催。 五木村学校運営協議会への参画。 	<ul style="list-style-type: none"> 五木分校の教育活動の説明、主な行事の視察と承認。 五木分校への地域貢献活動のニーズの把握。 五木東小学校、五木中学校の運営への協力。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に学校運営協議会を開催した。 五木東小学校周辺の除草作業や夏休みこども教室、道の駅での清掃ボランティア活動など、行事の改善や見直しを図ることができた。
		防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校防災年間計画の作成及び防災教育の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の防災意識を高める取組みと中学校との合同防災訓練（風水及び土砂）の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育は、中高連携で行った。 数学ではマグニチュードを算出するなどの防災教育を行った。
職員研修	職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事の根絶 人権意識といじめに対する感性の向上 ICT活用 授業改革 	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事0に向けた規範意識の高揚。 人権意識の向上、規範意識の高揚。 ICTを活用した授業改革。 ICT指導力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な職員研修と職員朝会での機会を捉えた注意喚起。 言語環境を整え、人権意識の高い職場環境への醸成。 公開授業や研究授業に向けた研修等の実施と研究会等への積極的な参加。 授業におけるICTの日常的活用。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修や朝会で不祥事防止や交通安全の注意喚起を行った。 職員が日ごろから教育活動全体を通して人権を尊重した指導を行っており、保護者の理解も得られることに繋がったと考える。 ICTを積極的に活用し、研修や公開授業も行った。また、日々の授業で活用するだけでなく、他校と連携した交流学习にも繋げることができた。

4 学校関係者評価

(1) 学校経営について

- ・五木分校卒業生の保護者が「五木分校に行って良かった」と話された。創立記念式典では、生徒が輝いており、いろいろなものに携わり生き生きとした子供たちを見ることができた。
- ・毎月地域に配付している学校だよりの様式を変えることで、見やすくなり地域の方々に分校の様子を知っていただくのによいと思う。
- ・コロナ禍での公開授業ということで、広く案内がなかったが、今後は授業を見学できる機会をぜひ作って欲しい。

(2) 学力向上について

- ・五木分校の良さは、個々に応じた学習指導が行き届いている点にあり、学力が向上していることは評価できる。
- ・ICT活用について工夫されており、家庭学習の習慣が身につけていることは評価できる。

(3) キャリア教育について

- ・進路希望に沿った、丁寧な指導や体験学習が行われていると思う。
- ・森林教室をはじめ、地域理解の学習が積極的に取り組まれていた。五木村教育委員会の学芸員も協力するので、今後もぜひ継続して欲しい。

(4) 生徒指導について

- ・いじめについては「無くす」でなく「早期発見」を意識して素早い対応と「どうやって解決するか」を徹底して欲しい。すでに五木分校では、きちんとされている。
- ・地域でのあいさつ運動も頑張っており、生き生きとした生徒を見ると安心する。生徒間の仲の良さが感じられる。

(5) 人権教育の推進について

- ・様々な学校行事等を経験し、肯定感や有用感が向上しているのは評価できる。今後もボランティア活動などを通して、もっと向上することを期待する。
- ・「人吉高校五木分校生としての誇りを持ち、校則を守っている。」の生徒評価が100%というのは素晴らしい。

(6) いじめの防止等について

- ・いじめゼロは日頃からの先生方が生徒の様子を観察し、「早期発見」を意識し生徒が相談しやすい環境づくりと、絶対いじめを許さないという信念の結果であって、大変素晴らしい。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

- ・小学校周辺の清掃活動など大変感謝している。小学生と一緒に活動することが叶わなかったので、ぜひ一緒に取り組むことができる活動を実施したい。
- ・特に中高連携した取組はお世話になっている。今後も引き続き連携し、地域も含め子供たちを育てていきたい。

5 総合評価

教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉・球磨地域にある普通科の人吉高校の分校として、地域と連携し、小規模校の特長を最大限に生かした、個に応じた指導を充実させ、心豊かで調和のとれた社会に貢献できる人材を育成することができた。

本年度の重点目標として、「一人一人が輝く分校生」を教育スローガンに掲げ、自己管理能力の育成、ICTを活用した教育活動の深化、多様な生徒への対応、地域に根ざした特色ある取組の推進を行ってきた。

学校運営協議会委員の方々からは、本校の「一人一人が輝く分校生」の実現に向けた、生徒それぞれに役割を持たせ、全ての生徒に輝く場があること、個に応じた細やかな指導に高い評価と激励の言葉をいただいた。

(1) 学校経営について

学校行事については生徒・保護者・職員ともに高評価で、生徒にとって魅力あるものになっている。生徒・保護者と比較して保護者の評価が少し低いのは、新型コロナウイルス感染症対策から保護者が関わる機会が減ったことが原因として考えられる。

広報活動は毎月地域への「分校ニュース」の配付だけでなく、地元新聞に数多く取り上げてもらい、地域に根差した取組の実践を発信し、地域とともにある学校としての取組を充実させている。

働き方改革については、業務分担の見直しなど、時間外勤務の削減をさらに進める必要がある。

(2) 学力向上について

ICT機器の多様な活用の推進に取り組み、学習の成果を「見える化」するなど工夫を行ったことで、学習意欲の向上につなげることができた。また、日頃から放課後を有効に活用した個別指導など学習時間の確保に努めたが、家庭での学習習慣の定着については、引き続き指導を続けていく必要がある。

(3) キャリア教育について

インターンシップを実施することができ、進路決定への意欲の向上が見られた。また、新たな取り組みとしてICTを活用し、泉分校・倉岳校と連携した学習活動では、コミュニケーション能力を育成し、キャリア教育を推進することに繋げることができた。

(4) 生徒指導について

日頃から全職員で声掛け、見守りを行い、早期対応や悩み・困り感の掘り起こしを大切にしてトラブル等の未然防止と素早い対応に努めた結果、生徒指導上の問題はほとんど発生しなかった。行事等に積極的に参加し、自分の役割を果たすなど、生徒の自覚やモラル意識は高く評価できる。生徒の対人スキルの向上については引き続き指導をしていく必要がある。

(5) 人権教育の推進について

教育活動全般を通して職員が協力しながら取り組んだ結果が表れており、また保護者の理解も得られている。自己有用感を高めるため、様々な場面で一人一人に役割を持たせるとともに、地域に密着したボランティア活動を引き続き推進したい。

(6) いじめの防止等について

いじめ問題対策委員会では外部専門家から五木分校の実情に即した指導助言をいただき、日頃から生徒との関係性づくりを大切にし、安心して通える学校づくりを行っている。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

地域の方々に様々な助言や協力・支援の申し出をいただき、地域の主産業や歴史と生活様式を学ぶ地域理解を進めることができた。また、保護者の学校への参画意識も高く、協力いただき創立50周年記念事業として駅伝大会や記念式典が行うことができた。

6 次年度への課題・改善方法

【課題】学校行事への保護者の参加

【改善方策】新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、何らかの形で保護者が関わる機会を設ける。

【課題】働き方改革

【改善方策】実態に即した業務内容の精選、分担の見直しなど学校改革推進委員会で分析を行う。

【課題】学習習慣の確立

【改善方策】継続して「学習・生活の記録」を活用とともに、ICTの有効的な活用法を工夫し、生徒の意識改革を図ると同時に、家庭との連携を一層進める。

【課題】探究学習の充実

【改善方策】3年間を見通した探究活動の構築とともに、地域理解を深める体験活動や他校との交流学习を取り入れ、創造的な視野を広げる。

【課題】生徒の対人スキルの向上

【改善方策】対人コミュニケーションの機会を学校内だけにとどめず、地域や他校との関りを通し、より充実させるとともに、状況に応じた対応を意識することや、その対処法などについても指導を行う。

【課題】生徒の自己肯定感、自己有用感の向上

【改善方策】様々な活動において、一人一人が役割を果たす機会を作るとともに、地域と連携し、地域へ貢献していることを生徒が実感できるボランティア活動、小・中学校との交流活動を推進する。